

「遊び」から「学び」に向けて

大和郡山市立矢田南幼稚園 大和郡山市立矢田南小学校



幼児・児童の実態の交流



園内研究会への校長・小学校教員の参加

互いのことをよく知ろう！



授業参観以外の休み時間や給食の様子の見学

○学級通信や製作物を見合う
○幼児・児童の姿を伝え合う機会を多くもつ など



教職員同士の研修

★アプローチ・スタートカリキュラム作成に向けて★
・1年生の困り感についての共通理解
・幼稚園での経験と小学校での学習活動についての相互理解

ポイント
○打合せの時間の確保
○打合せで保育室・教室を互いに利用

困り感に寄り添って

ポイント
○入学時の困り感の共有と意識化
○カリキュラムのためのカリキュラムにならないような工夫

1. 1年生の困り感を分析する視点の決定
(他地域のカリキュラムを参考)
「生活する力」「関わる力」「学ぶ力」

2. 共通の項目の明記
幼稚園で付けておきたい力や小学校生活をスムーズにするために付けたい力について共通理解する。(小項目の設置)

「生活する力」…基本的な生活習慣(健康)、食事、排泄、生活態度(ルール)
「関わる力」…あいさつ・返事、伝え合い、人との関係づくり
「学ぶ力」…意欲的に取り組む
身近な環境への関わり(自然、数量、文字等)
身体を動かして活動する
様々な方法で表現する(絵画、製作、歌、言葉等)

3 つの力を併記したもの(「生活する力」の一部のみ抜粋) ○安定している姿 △困っている姿

幼稚園	小学校入学時の子どもの姿	小学校
【基本的な生活習慣(健康)】 ・健康 ・天候や活動内容によって衣服の調節をする。 ・ハンカチやティッシュを身に付けたり、必要に応じて使ったりする。 【食事】 ・な物でも少しずつ食べようとする。 ・マナーを守って一定時間内で食事を済ませる。 ・和やかな雰囲気の中で食事を楽しく感じたり、食への関心が高まったりする。	○手洗いが必要な場面は分かる。 △手洗いがいかに習慣付いていない。 △ハンカチやティッシュを身に付けていない。 ○給食を楽しみにしている。 △時間内に食べ終わることができない。 △食べず嫌いのおかずがある。 △自分の食べられる量が分からなかったり、食べられないことを先生に伝えられなかったりする。	【基本的な生活習慣(健康)】 ・手洗いがいかに効果を知り、進んでしようとする。 ・ハンカチやティッシュを持つ習慣を身に付ける。 ・素早く衣服の着脱、始末ができる。 【給食】 ・決められた時間内に食べる。 ・マナーを守って楽しく食べる。 ・自分の食べられる量が分かり、残さずに食べる。

アップ ローチカリキュラム
既存の「指導計画」を再構築し、「3つの力」に
対応するようにねらいと内容を定め、援助・環境
の構成等について記す。

スタートカリキュラム
①生活科を核とした総合的な指導
②遊びを取り入れた楽しい活動 ③時間配分の工夫
④学年合同学習 ⑤複数の教員によるサポート

幼小交流の工夫



運動場の遊具に挑戦

幼児の小学校施設・設備の利用

幼児と1年生とシャボン玉遊び(6月)
遊びを通じた自由な交流



児童の刺激を受ける幼児



事後の振り返り学習

幼児と1年生とドングリグループ
転がし作り(11月)
別交流



グループで協力した活動



ここまで転がってきた!



絵本の読み聞かせ

5歳児と5年生との交流の積み重ね



新年会のピンコゲーム

○活動後の日記の抜粋
「つぶれたときはたすけてあげたよ。みんながえがおでいて、すごかったのしかったよ。」
「ダンボールカッターをじゃうすにつぎはようちえんのおともだちが」
「つかって、おどろきました。」
「学校にきてほしいです。」

来年度1年生・6年生の関係になる2学年での交流の積み重ね。その中で出てきたつづきやきが新年会の企画へと発展した。

【取組の成果と課題】

○園児・児童の実態を話し合ったり、交流の打合せを積み重ねたりする中で、入学して期待を膨らませている姿や困っている姿を共有することができた。その際、幼稚園と小学校を行き来しながら打合せをしたことで、互いの教育を知る機会となり、交流の工夫に繋がった。
○入学時の困り感について共有したことで、アプローチカリキュラムとして取り組むべき内容や、スタートカリキュラムとして考慮していく点について認識することができた。このことを教職員間で共通理解したり、地域内の保育園に広げたりすることが今後の課題である。

【鈴木先生からのコメント】

ここでは、幼児・児童の実態を園と小学校で共有したところが良かったのではないのでしょうか。特に入学時の困り感を話し合っ、お互いどうすればよいかを考えることができたのが、子どもたちのためになってきたかと思えます。それをカリキュラムという形にできたことで、長くつながる連携になるのではないかと考えられます。連携の始まりは子どもの姿の共有から!そこから幼児期と小学校でのねらいがつながることで、子どもたちの育ちを支えることができます。今後はカリキュラムを改善してより良いものにしていくください。

ポイント
○交流事前事後の打合せ
○実態に応じた交流の形態の工夫
○互いのねらいの明確化
○園児・児童のつづきやきからの交流の工夫

子どもの主体的な活動を中心とした幼小接続

～聴く力、伝える力をつないで～

天理市立丹波市幼稚園 天理市立丹波市小学校

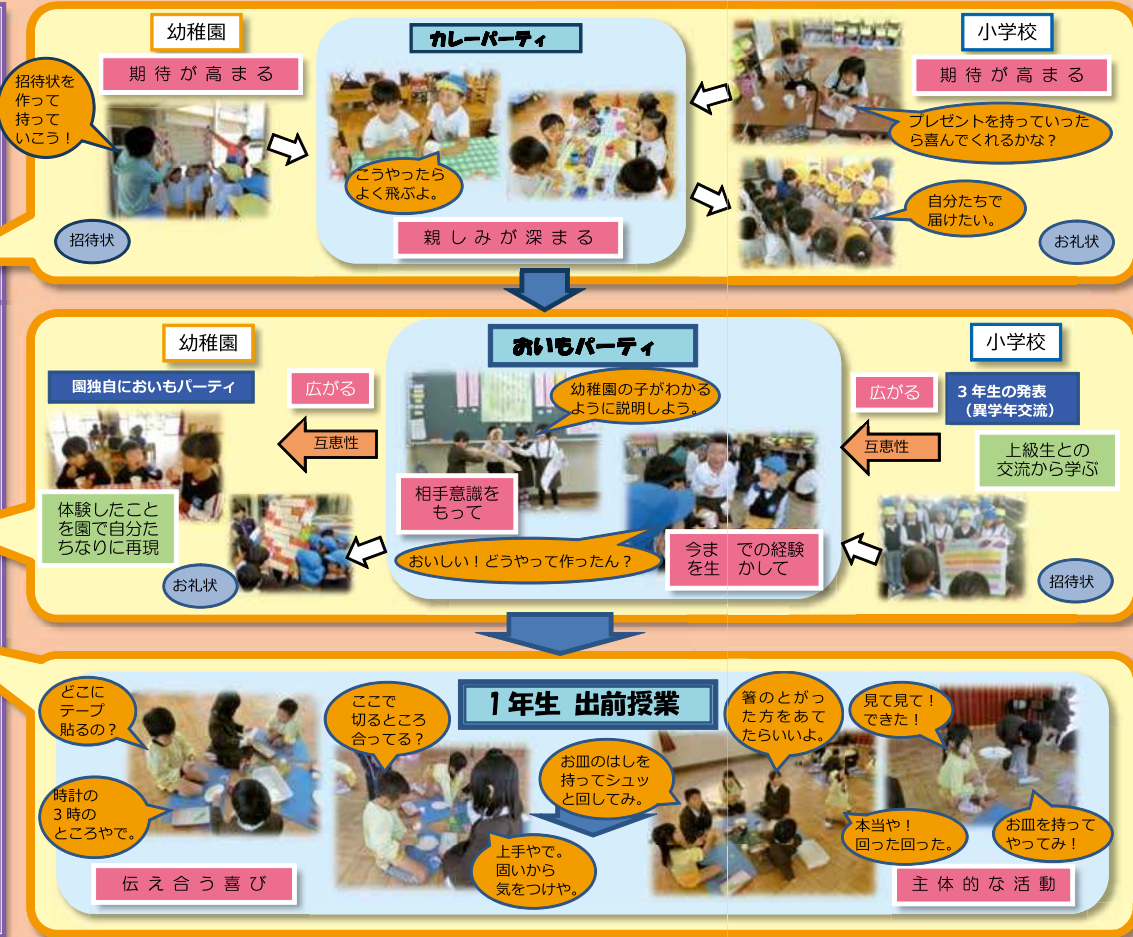


子どものつばやきから広がる幼小交流

- ◎ 幼小のつながりを意識した交流へ。
- ◎ 子どものつばやきを大切に、「こんなことができたなら楽しい」を実現させる交流へ。

幼小連携年間計画

- 4月 出前保育 (幼稚園と保育所の元担任と1年生)
- 4・5月 授業参観 (幼・保の教職員と1年生)
- 6月 保育参観 (園児と小学校の教員) **カレーパーティ** (園児と1年生)
- 7月 プール開放 (園児と小学校の教員)
- 8月 教職員合同研修 (幼小の教職員交流)
- 9月 夏休みの作品展見学 (園児と2年生) **運動会** (幼・保の園児と1年生)
- 10月 **おもいParty** (園児と1年生)
- 11月 **音楽会演奏披露** (園児と4年生) **出前授業** (園児と1年生)
- 1月 **たこあげ交流** (幼・保の園児と5年生) **体験入学** (入学予定園児と1年生)
- 2月 教職員合同研修 (講師を招いて講演会) **給食体験** (園児と5年生)
- 3月 **出前授業** (幼・保の園児と小学校の教員)



経験から広がる 幼小のつながり

主体性を育む話し合い活動

◎ 聴く力・伝える力を育て、話し合い活動を通して、主体性を育てる。

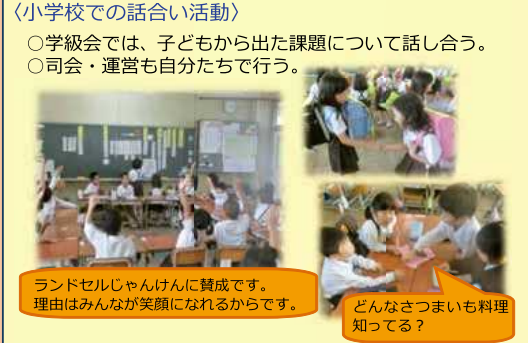
(幼稚園での話し合い活動)

○ リレーの話から… 板書を通しての活動を取り入れる。
ホワイトボードの活用



(小学校での話し合い活動)

○ 学級会では、子どもから出た課題について話し合う。
○ 司会・運営も自分たちで行う。



子どものつばやきをひろう

○ 遊びや学習場面で、子どもが思いついたことやつばやいたことを指導者が受け止め、目的意識をもって実現できるように支援していく。

聴く力・伝える力を育てる

○ 話をする人の方を見て、その人が何を言いたいのか考えながら聴いたり、自分が考えたことや思ったことを相手に分かるように伝えたりできるようにする。

ポイント 一人一人に居場所があり、どの子どもも活躍できる。達成感を味わい、自信をつけて、自ら学ぶ子どもを育てる。

取組の成果と課題

- * 合同研修を重ね、幼稚園教育と小学校教育のカリキュラムの違いを理解することで、子どもの発達、幼児理解を踏まえた授業内容を工夫することができました。
- * 自分たちの意見から楽しい交流ができたことで、1年生も園児も自信をもつことができました。園児にとっては、小学校への期待感が高まるとともに、就学への不安が軽減しました。
- * 幼小接続期にあたる年長児・1年生担任をどの教職員でも担当できるように、更に研修を重ねます。

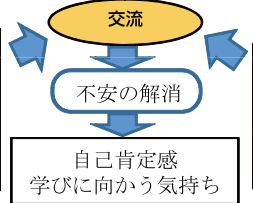
【鈴木先生のコメント】

子どものつばやきには、一人一人の思いが詰まっています。教員や保育者から与えられた活動ではなく、本当に自分でしたい活動としての交流ができたのが素晴らしいですね。そこには相手を思いやる気持ち、他者の思いを聴こうとする意識、何かを伝えたいという思いが生まれています。園でもホワイトボードを活用するなど、思いを形にする努力がなされていて、小学校でのコミュニケーション力の育成につながっています。そのためには先生方同士の話し合いが大切であることが分かります。つばやきから主体性へ、そのコツを積み上げていってください。

「ワクワク ドキドキ 小学校」 ～知りたい・伝えたい・つながりたい～ 宇陀市立榛原東幼稚園 宇陀市立榛原東小学校

幼稚園生活の中で、自分のしたいことを見付け、存分に遊ぶ幼児の姿を小学校生活の中でも見られるように願っている。しかし、幼児は漠然とした不安を抱えていることが分かった。本市では、幼児の不安感を糸口に交流を組み立て、幼小接続に取り組んだ。

幼児の小学校に対する漠然とした不安
・給食の時間が短いからどうしよう
・学校まで歩いて行けるか心配
・男の人がたくさんいるからドキドキする
・何か分からないけど不安



保護者の不安
・登下校について
・友達関係について
・小学校生活について
・給食について



小学校教員の園見学

「幼稚園って、どんなところ？」
幼稚園の教育を知ることが、子どもたちへの支援のヒントとなった。



小学校探検

「6年生ってすごい！」
知らないことがいっぱい。
もっともっと知りたい！
私もやってみよう。



小学校の運動会

小学校の運動会では5年生と手をつないでスタートラインへ。
来年も、小学校で出会う。



合同活動（秋みつけ）

「一緒に降りよう。」
人の役に立てたという喜びを味わった。

そっと手をつないでくれる1年生の優しさに触れ、不安が安心感へと変わる。

不安から期待へ

小学校の秘密がいっぱい。
小学校への期待が膨らみ、幼稚園との違いに気付く。



小学校紹介カード

園児が1年生からもらった校内の写真を見ながら、自分たちの探検したい教室について、話し合う機会を大切にする。そのことで、幼児自らが主体的に交流会に参加できるようになった。

「小学校って、どんなところ？」
幼児の期待や不安を知ることが大切！小学校に行くことによって、小学校がどんなところか分かってきた。



小学校訪問



幼稚園訪問
(小学校の紹介)

相手意識をもった交流にすることで伝えたい気持ちが増した。



保護者交流会

交流内容の発信や小学校についての情報交流が、保護者の不安軽減につながった。



幼小連携だより

取組の成果と課題

○交流を通して自己肯定感を高める

幼児の姿から、小学校入学に向けての不安が高いことに着目し、幼小の交流のねらいを小学校について知ること、相手意識をもち、主体的に取り組むこととし、活動を設定した。継続して交流するためには、話し合いの機会を多くもつことが大切であり、事後の話し合いの中で、次の交流のアイデアが生まれてくる。交流会のねらいが明確になり、互恵的・継続的な交流が実現する。

○保護者の不安感を軽減する

子ども同様、保護者の不安も大きいことが分かった。保護者の不安を取り除くために、先輩保護者との交流会の開催や『幼小連携だより』の発行をした。子どもが小学校生活に期待をもっている姿から、小学校での生活を見通しながら成長を見守ることができるようになり、保護者の期待につながる事ができた。

○地域の幼・保で共に取り組む

市内公・私立保育園・幼稚園5歳児交流会を行っている。5歳児が互いを知り合うことで入学時に早く親しむことができる。また、教職員も、入学までに育てたい力を共有することができた。

○学び方を知り、教育をつなぐ

幼稚園や保育所に小学校の教員が訪れる中で、教育の中で大切にしているものが見えてきた。幼稚園教育を知ることが小学校入学時の姿やその時期の教育の方法を考えることにつながり、互いの教育をつなぐ糸口を見付けることができた。

【鈴木先生のコメント】

子どもたちの不安を受け止めそれを期待につなげていく実践です。実は、子どもたちだけでなく、保護者も不安を抱えているのです。そこを丁寧にほぐしていくことで、保護者と子ども・先生が一体となって連携を進められたのが、この実践の優れたところです。夏休みに小学校の先生が園訪問をしたり、保幼でお互いに交流したりして、先生方が「つながりたい！」という思いを行動に移した。その結果、皆が安心できる環境が整ってきたのではないのでしょうか。保護者への関わりについて、これからも示唆をお願いします。